TNVN network news
東京日本語ボランティア・ネットワーク
2011.6.10 発行 No.74
〒 162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1 ☎ 03-3235-1171（呼出）東京ボランティア・市民活動センター メールボックス No.4

TNVN・第18 回総会後の意見交換会では
東日本大震災後の
日本語ボランティア教室の状況が話題に

総会は 2011 年 4 月 23 日、東京ボランティア市民活動センター会議室で午後 1 時から開かれました。
特に 3 月 11 日に突然襲った東日本大震災によって、日本語ボランティア教室は支援活動に大きな影響を受けている中での開催でした。
総会後の意見交換会では、今直面している大震災後の日本語ボランティア活動の状況について有意義な情報交換がなされました。

（梶村　勝利）

Ⅰ 第18回総会

16 団体の代表（代理を含む）が出席、議長に大和田昭文氏（MIFA 代表）が選出され、議事が進行されました。（委任状 31 団体　合計 47 団体で会員団体 83 団体の 1/2 以上で総会成立)

◉ 2010 年度の活動

◎相談窓口活動 ◎会議等 ◎情報部門（ニュースレター発行等）◎PROJECT ①「ボランティア日本語教室ガイド 2011 東京」発行・配布、及び TNVN ホームページの充実 ②「わかる日本語」研究会の開催 ◎出前講習会 ◎会計報告等を担当者が報告し、承認されました。

◉ 2011 年度の活動

これまでの定常業務を継続し、日本語ボランティア活動に関係する情報提供や情報発信を会員のご協力を得て行い、会員の相互理解を深めるよう進めていきます。

PROJECT では①「ボランティア日本語教室ガイド 2011 東京」のフォロー（TNVN ホームページ上で最新の教室活動情報を追加・更新）②「わかる日本語」研究会の実施　等を行います。

今回の東日本大震災でも「やさしい日本語」で情報を発信する自治体や機関が増えています。

研究会では日本語力が十分でない外国人を対象に災害時情報や生活情報をわかりやすい日本語で伝えることを考えていきます。

日本語ボランティア活動を通して自治体からの情報を「わかる日本語」で学習活動の中で周知出来る様にし、合わせて自治体等にも情報を「わかる日本語」で発信するよう働きかけます。

Ⅱ 意見交換会

当初、総会のお知らせでは、総会後に庵功雄氏（一橋大学国際教育センター准教授）に『「やさしい日本語」理念と内容』の講演を予定していましたが、緊急な状況でご講演を頂けなくなりました。後日改めてご講演をお願いします。

1 日本語ボランティア教室は今どんな状況か!（東日本大震災の直後とその後の状況）

TNVN がこれまでに調査・報告した ①大災害直後 TNVN 役員・スタッフ運営委員が所属する教室状況をまとめた資料、②「ガイド 2011」(*1) から夜間活動している団体数（88 団体 /180 団体）、③「調査報告書」(*2) の中から災害情報に関連

したデータ等を岩佐幹彦さんが紹介しました。

(*1) 日本語ボランティア教室 2011 東京

(*2) 日本語ボランティア活動に関する意見及び意識

次いで各団体から東日本大震災の直後とその後の状況が報告されました。

以下報告内容の概要を記します。

◆直後の対応

学習者の安否確認、教室開催についてボランティア間の確認と学習者への連絡などの緊急対応をした。会館が閉鎖されボランティアは商業施設の飲食コーナーで相談をした。

学習者との連絡確認が取れた所、取れなかった所様々で、多くの学習者は原発事故への心配から帰国しており連絡が取れなかった。

◆この 1 ヶ月間の推移・状況（教室が開けない!!）

◉会場が使えるか

電力制限（計画停電や節電）により公的施設の会場が使えず、4 月になり一部の場所では順次使用可能となっているが連休明けでないとハッキリしない会場がある。4 月の分は全てキャンセルされている会場もある。特に夜間の使用は殆ど出来ない状況で昼間への移行、別の会場を探す等で苦労。会場を別に借りると費用負担が大きくなる。

一時的に学校開放の教室が使用出来たが、いつまで使えるか、などの悩みが有る。また地震で施設の一部が壊れ、別の場所で行っている。

◉学習者の参加は

原発事故が心配で帰国した外国人が多く、学習者も激減している。直後は教室が開けてもごく少人数だった。4 月になり震災以前の 1/3 ～ 1/2 に戻っている。長期滞在の人は帰っていない。帰国したくてもできない人もいる。

◉ボランティアは

学習者が減少したので、これまで手薄になっていたことを埋めている。

この機会にスタッフ同士でゆっくり話し合い、勉強をする場をつくる。

など前向きな対応をしている。

◆今後の教室再開はどうか

①これまでの会場が使用出来る　②別の会場に移り再開する　③場所がなく教室を閉鎖しないといけない。などの事情を背負って教室の再開に努力している。

しかし今後の見通しが立たないところもある。

再開に当たって連絡しても返事がなく一人ひとり訪問し再開を伝えている。

◆教室で学習者への防災対策について

平時から地震の時どうするかボランティア自身が考えておくことが必要であると全員が認識しました。

その中の取り組みとして

- ボランティア向けに防災対策を検討し、パンフレットを作る。
- 3/11 の事を作文に書いてもらった（不安が大きい）。地震のことを話し合い学習者に感想文を書いてもらった。
- 緊急箱づくり、身分緊急カード・ヘルプカード作成などを授業に取り上げた。
- 地震の対応を動画作成し広く見てもらう。
- 防災館での体験を続ける。

◆そのほか

- メンバーで義援金を集める。
- 地震後ボランティア希望の問い合わせが急増。
- 学習者で地面の揺れが何なのか分からない人がいた。

Network News No.74 が皆さんのお手元に届く頃はどうなっているでしょうか。

2 「わかる日本語・やさしい日本語」の必要性と取り組み

東日本大災害後の日本語ボランティア教室の状況報告で、予定の1時間半が 2 時間になり、残り時間が少なく「やさしい日本語・わかる日本語」は TNVN の取組み概況を報告するに終わり、皆さんとの意見交換は出来ませんでした。

◎東日本大震災で外国人への情報提供として Web 上で「やさしい日本語」に翻訳・発信されている事例を紹介。

そこでは「やさしい日本語」で使われる“漢字の読み”の表示方法について考えて貰いました。①漢字にルビを振る (PDF で発信)　②漢字の後に（　）内にふりがなで読みをいれる（WEB の文）

◎ TNVN が始めた「わかる日本語」研究会の目的と今後については概要を紹介しました。

まだまだ続けたい所でしたが意見交換会を終わらせました。

今後も実践で活動している方々が多く参加できる場を作っていきたいと考えます。

■意見交換会参加団体　各団体 1 名、[ ] 内の数字は同じ団体からの人数

やさしい日本語（江東区）、まちだ地域国際交流協会（町田市）[2]、初歩日本語（練馬区）、ビバ日本語教室（港区）、早稲田奉仕園日本語ボランティアの会（新宿区）[2]、にほんご友好会（練馬区）[3]、武蔵村山日本語の会（武蔵村山市）、光が丘やさしい日本語（練馬区）、小平日本語ボランティアの会（小平市）、社会福祉法人 さぽうと21（品川区）、日本語サークル「くりはら」（足立区）、東久留米にほんごクラス（東久留米市）、江戸川平井にほんごサークル（江戸川区）[6]、東京 YWCA 武蔵野センター（武蔵野市）、日本語ボランティア教室めいめい（足立区）、所沢インターナショナルファミリー（所沢市）、グループ WA(足立区)[2]、東京都国際交流委員会（東京都）　計 28 名

日本語ボランティア活動への私の思い、「教える」から「ともに学ぶ」へ

石原弘子

にほんごの会くれよん（目黒区）
jcrayons@yg7.so-net.ne.jp
http://www006.upp.so-net.ne.jp/crayons/

寄稿

東日本大震災の影響は皆さま方のところではいかがですか？ 当会では３月いっぱい休会しましたが、４月から再開しました。中国の方たちはいなくなり、韓国の方たちが増えました。また、今夏は節電のため会場が使えないという状況になります。

私は、震災前から、日本語ボランティア活動において、日本人側の意識が問われていると思っていましたが、震災でさらにこの思いを強くしています。

1995 年に大阪で日本語ボランティア教室を始めて以来、地域の活動はミニ日本語学校ではないと思いながらも、どうあればよいのか分かりませんでした。山田泉先生（現在、法政大学教授）とはじめて出会ったときに、「これは、相互学習だ」と言われましたが、「外国の人は、日本語を教えてもらいたいと思っているし、私たちは教えてあげたいと思っている。どこが、なにが、相互学習だろう?」「日本語を使っての活動では、私たちが圧倒的に有利である。私たちは何を学ぶのか?」と、ずっと引っかかっていました。

手探りで進んできた「くれよん」でも、「みんなの日本語」を何課までやっているかが基準になっているように思えます。私は、日本語ボランティア教室は「日本語を使って活動を作り出す」場だと思って、子ども連れで参加できる団体をつくったのですが、ボランティアの「日本語を教えてあげる」活動だという思い込みに、これでいいのだろうかと思っていました。

文化庁の「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」の募集案内を見たとき、相互学習とは何か？　私たちの「教えたい」という気持ちが、「ともに学ぶ」という気持ちに変わるには、どうすればよいかを考える講座を開きたい、それも当会単独でなく、複数地域の方たちと組んで開きたいと思いました。この呼びかけに応じてくださった人材育成コーディネーターの吉田聖子さん、西東京市の飯塚睦さん、町田市の荒明美奈子さん、桜美林大学の佐々木倫子先生、東京都国際交流委員会の元事務局長、くれよんの茂木真理さんの計７人が運営委員会を結成し、昨年６月から今年２月まで、全部で 10 団体からの参加者をえて、計 40 時間の講義とワークショップと実践という講座を行いました。平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業【ボランティアを対象とした実践的研修】にほんごボランティア実践的研修講座　「教える」から「ともに学ぶ」へというのが、講座名称です。内容は、文化庁のホームページから読むことができます。

熱気あふれた講座は、最後まで衰えることなく、参加者から提出された実践報告は 100 枚以上にのぼりました。講師の話から刺激を受けたり、自分の活動を見直したり、参加者全員が真剣に実践報告を書きました。私は「相互学習で何を学ぶのか」の答えとして、日本語で交流だからこそ、私たちが意図的に相手のわかる日本語にすること、また、相手の「できる」につながるプログラムを考えることだと分かりました。

大震災で、私たちの活動は求める人がいるから成立するのであって、私たち側だけの活動でないことを改めて思いました。今後、日本に住む外国の人たちと、どう共生していくのか、机上の付き合いではなく、生活に根差した活動を生み出す、そのバイタリティと工夫こそ、日本語ボランティア活動の真髄になるのではと予想しています。そして、その試行錯誤の交換が TNVN の役割であると期待しています。

●国際化市民フォーラムに参加して

「わかる日本語」で！行政情報、生活情報を

去る２月 19 日、東京都国際交流委員会が主催する「国際化市民フォーラム inTOKYO」が広尾の JICA 地球広場で開催されました。

フォーラムは、「日本語が母語でない人への行政情報、生活情報の伝え方」を中心テーマに、第1分科会は、日本語が母語でない人に「わかる日本語で情報を」と題して、① TNVN 梶村代表から、アンケート調査により 85% の学習者が「わかる日本語」を希望し、各地の自治体や大学においては「やさしい日本語」の取り組みがされている。②中野区国際交流協会の中山真理子氏は、書く日本語だけではなく、区の行事・催しの際は、「わかる日本語」で司会等を行っている。災害時情報の翻訳伝達はスピードが大事です。③元慶応大学生グループからは福生市における生活便利帳の「やさしい日本語」版作成の報告がされました。

第4分科会では、「わかる日本語」の作り方を中山氏から説明を受け「わかる日本語」の翻訳作業をしました TNVN では今後、災害時、緊急時を問わず「わかる日本語、わかりやすい日本語」による情報伝達が、より一層求められてくると考え、フォーラムに参加された多数の日本語ボランティアの方々に感想をお願いしました。

（感想まとめ：岩佐幹彦）

第１分科会

■東京日本語ボランティアネットワークは、「わかる日本語」についてのアンケート調査や、研究会を発足させ、自治体や大学における取り組みを紹介していました。「わかる日本語」普及への牽引力となることを期待します。

■中野区では、書く日本語だけでなく、行事等の際の司会で話す日本語も「わかる日本語」を使用している。災害時には「わかる日本語」を多言語に翻訳する場合など、外国人の参加や人材育成など、多面的な取り組みが必要であると感じました。

■福生市の生活便利帳の「やさしい日本語」版作成にあたっての自治体と大学、地域住民との協働作業は、今後の「多文化共生社会」づくりに必要だと感じました。

■福生市の報告は、地域に暮らす外国人への友好的な情報のあり方の研究とその結果だと考えます。良い結果を生むには、研究者だけではなく、自治体（行政）も一緒に考える事の大切さを証明するもので、各自治体にとっても良い参考事例になると思われます。

■私たちボランティアは研究者ではなく支援者であり、外国人の方々に「大切なことをいかに知ってもらうか、理解してもらうか」が要諦であり、難しい日本語でも「必要な言葉、用語は、暗記のように覚えてもらう」事が必要です。災害時のように命にかかわることを伝えるには、本当に心から訴えると通じるものと思われます。

■日本語がよくわからない、文化や生活習慣の異なる外国人に情報を「わかりやすく」伝えることを考え、外国人と向き合う時、日本語ボランティアの役割も見えてきます。

第４分科会

■行政や学校等、公的機関からの情報は、日本人が読むという想定しかしておらず、日本語を母語としない外国人にはかなり難しく、実際に日本語をより、わかりやすくする作業は意外と難しいものでした。まず、内容を伝えることが先決なので、直訳にとらわれず、シンプルに表現することにしました。

「避難所」などは実際に標識で使用されており、知っておかなければならない単語はそのまま使用し、説明を加えました。また、手続きの手順等、いくつか情報がある場合には箇条書きにして、番号を付しました。イラストの挿入等も有効な活用と思えました。また、私たちが日常当然のように知り得ている情報が、外国人には必ずしも当然ではないことを再認識する機会となりました。

■例題をもとに「翻訳」をしてみると、日頃何気なく目にしたり、使用している文章（特に紙に書いた文章）には、平易に訳すのが難しい用語や言い回し（文法）が含まれていることに気付きました。特に公的文書には、連体修飾節や連用修飾節を含む複文が多く使われており、各国語にそのまま翻訳して事足れりとするのは問題と感じました。

※複文＝主節と従属節からなる文。主節の一部に従属節が含まれる文。（広辞苑）

私の国イランの話

人々は春休みも夏休みも自然の美しい所に行って家族で過ごします

サハル・ローシャニ／イラン
ビバ日本語教室（港区）

私はイランのテヘランで生まれました。

イラン人はとても教育熱心で、子供達は高校を卒業した後、大学に入学するための試験を受けなければなりません。試験は毎年夏に始まります。

私も去年、大学の試験を受けました。今、私はテヘラン大学の日本語科の学生です。

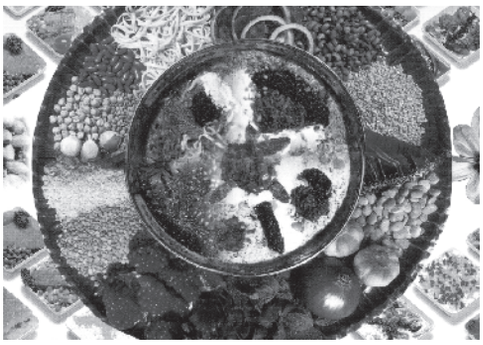
私は2008年に日本へ来ました。その時、雨が降っていたので、おどろきました。なぜなら私の日本のイメージは雨の国ではなく、雪の国の印象があったからです。

私の国、イランは4つの気候に別れています。北はカスピ海に面していて、いつも蒸し暑く、東は乾燥していて暑いです。西の方は山があるので寒く、南はペルシャ湾があるため暑いです。

イランの人口は7800万人、ほとんどの人々はペルシャ語で話しています。イラン暦では日本の春分の日3月21日が春の初めの新年(ノウルーズ)になり、その日から13日間休みです。

この13日間は家族みんなで旅行します。イランの北の方にマザンダランという町があります。カスピ海の南に位置し、海もあり森もあり、とてもキレイな町です。人々は春休みも夏休みも、そういう自然の美しい所に行って家族で過ごします。

イランではパーティーがたくさんあります。一つはシャベーヤルダ(ヤルダーの夜)です。この日は日本で言う冬至の日、この夜は一年で一番長い夜の日です。この夜に家族と友達はみんな一緒に祖父母の家で祝います。イラン人はこの夜　ざくろ、ピスタチオ、アーモンドなどのナッツ類を食べながらお話をします。そしてそれから夕食をみなで食べ、夕食が終わると、すいかを食べます。冬にイランでもすいかはありません。夏に取れたすいかをだいじに、ヤルダの夜まで貯蔵しておきます。みんなはこの日のためにおいしいすいかをさがして、買って来ます。パーティーの終わりに食べるためです。



私は日本に来て初めてテレビを見てお笑い芸人がどこの番組にも出ていて、興味深く思いました。音楽もたくさん流れていて、とてもうれしいです。

私は音楽が好きなのでいつもパワーをもらっています。

イラン人も音楽が好きです。

私の国の昔の音楽を「ソンナティ」といいます。ソンナティは年上の人たちの音楽です。若い人たちは聞きませんが最近「ラスタク」というグループが、ソンナティとポップを交ぜ合わせ、若者たちがソンナティを好きになるように曲を作り、今イランの若者の人気グループになっています。

私は日本の音楽を聞いて日本語が好きになりました。でも、初めて日本語を聞いた時、日本人の話がぜんぜんわからなくて、とても難しい言語だと思いました。それで、日本語の勉強を始めたのですが、今はとても楽しいです。

私は今、日本語をたくさん勉強して、イランにある日本の会社で働きたいと思っています。

nice to meet you

■笑顔の絶えない〝あいあい〟15年・さらに前へ　「東日本大震災」を憂い、想う

日本語ボランティア〝あいあい〟（足立区）

出口 輝彦

3月11日午後、激震に驚いた。東北太平洋沿岸部は大津波で家や家族が奪われた。福島原発が損壊し、三重苦の惨劇の序奏だった。この日を境に日本は大きな転換を迫られた。

〝あいあい〟は16年目の出発点で「東日本大震災」に遭遇、これからの教室存続も危ぶまれた。3月～4月は公共施設貸出しが中止され、他の会場を探したが、教場を失った。

震災後、学習者の帰国が相次ぎ、また、一時的に離日した。しかし、日本の家族の一員として帰国せず頑張った人たちもいる。

混乱の中、一ヶ月後の4月11日を校外学習に切換えて花見に行った。学習者の参加は5名だがみんな元気だった。4月18日から教室が再開されると10名余が教室に戻ってきた。ほっとし、嬉しかった。

〝あいあい〟は平成7年5月足立区綾瀬に誕生した。足立区主催の「日本語ボランティア養成講座」を受講した女性たちの力で発足し、15年が過ぎた。〝あいあい〟の名は「和気‘藹藹’」からとり、モットーとした。

学習者は主に地元の主婦たちで、毎週30名前後が来室する。年間40週ほどの授業の中で、雛祭り・端午の節・七夕祭りなど節句や季節の行事を行い、日本文化や習俗を紹介している。春は花見、菖蒲やつつじなど近くの公園を散策する。12月の「お楽しみ会」は教師や学習者がお国自慢の手料理を持ち寄って会食し、一年総決算の楽しい行事だ。こうした催しを通して、地域社会で孤立しがちな来日者との交流を深め、多文化共生を図っている。

15年間を振り返って、辛い、苦しみ悩んだことより「楽しかった」という思いが強い。

今回の震災で危惧を抱く外国人が、復興日本に合わせて再来日することを望んでいる。

会員団体紹介

Nice to Meet You

ice to meet you

■いつでも、だれでも

東大島にほんご（江東区）

小川 貴代子

毎週水曜日夜7時、平成4年から今までこの曜日と時間を変えることなく続けています。そのためでしょうか、何年ぶりかに教室を訪ねてくれる人も少なくありません。「まだやっているんですねえ!」と感慨深げに言う人もいますが私達は長く続けているという意識はなく、週一回の教室の活動は生活の一部となっていて無理なく自然に続けて来たような気がします。

私達の願いは教室のモットーである〝いつでも誰でも’に込められています。

遅くなって来ても、必ずどこかのグループに招き入れて少しでも近況を話してもらったり、試験前の中学生の勉強を手伝ってあげたりもします。外国人も日本人も皆に会うのを楽しみに教室に来てほっとくつろげるような、そんな教室をめざしています。　勉強は一対一できめ細かい対応をしています。

外国人の皆さんは普段の生活の中で様々な問題を抱えていたり、疑問に思っていることも多いはずです。時には日本語の勉強からはなれて話を聞いてあげることもあります。問題を解決してあげるまでには至りませんが、誰かに話したいという欲求を満たしてあげることはできているのでは…と思います。

また、夏の浴衣パーティーと年末の忘年会は恒例です。その時には日本人メンバーが家庭料理や手作りケーキなどに腕をふるいます。浴衣を着てうれしそうに写真を撮りあったり三味線に触ってみたり、歌ったり、踊ったり、それはにぎやかで楽しいひとときです。パーティーにはいつもの日本人メンバー以外の日本人の方々も参加してくださいますので、それもまた自然な交流の場となります。

日本人メンバーは10人ほどいますが、学習終了後の反省会や、時には、もんじゃを囲みながらの親睦会などをして、常に情報交換をするようにつとめています。

日本語ボランティアの現場から

学習者の声

日本語教室（サークル）は私の大切な空間

李　玖／韓国　江戸川平井にほんごサークル（江戸川区）

私が初めて日本語教室に通うと考えたのは昨年の３月でした。もう１年以上前の話です。きっかけは、これからの日本での生活をもっと楽しくするためには、コミュニケーション能力を高めることが一番必要だと思ったからです。

初めて日本語ボランティア教室に参加した時は３月の花見が行なわれるイベントの日でした。この頃は知っている人が誰もいなくて、周りの人は「初めて来た外国人かな?」「初めて見る顔だな」と言う表情で私を見ていた覚えがあります。

その時はこのボランティア教室に続けて通うとは思っていませんでした。でも、ここのボランティア教室の日本語勉強は、私の下手な日本語をボランティアの人は真面目に聞いてくれたり、ゆっくり話す雰囲気を作ってくれ、楽しく会話ができたので、今でも通っています。また、日本の文化や日本の生活で必要なことを習うことが出来て、とても役に立ちました。

お花見：中央が学習者本人

そして、もう一つ紹介したいのは「日本語勉強後のティータイム!」です。

このボランティア教室では学習の帰りにボランティアの人たちとお茶を飲みに行きます。日本語学習の時とはまた違う雰囲気で、辛いことも嬉しいことも皆さんと相談ができて、私にとって、とても大切な空間となりました。

これからも、この空間で楽しく日本語を勉強したいです。また、微力ながら日本語教室の活動や私のように日本の生活で困っている外国人に少しでも役に立ちたいため、「教室の学習者呼び掛け用のチラシ（ハングル語版）」作りや「色々なイベント」の手伝いをしています。

外国人の皆さん、日本語ボランティア教室に参加してはいかがですか? きっと新しい発見と経験ができると思います。

ボランティアの声

『継 続』―人とのつながりを―

木水 由里／江戸川平井にほんごサークル（江戸川区）

海外旅行に行くと、「この国にまた来たいな、文化をもっと知りたいな」とか、逆に「もう、あまり来たくないな」等と思います。そのように、にほんごサークルでは、学習者の方には、「日本は面白い、楽しい、もっと知りたい」、そして、「日本に来て良かった」と思っていただけるようにと活動しています。

ボランティア暦としては４年間ほどですが、日本語を教えることについては、どちらかと言えば苦手で、私なりのボランティア活動は、日本を好きになってもらう為に、いろいろな体験や、経験をして欲しいと様々な所に出かけることを勧めています。

初めての学習者は、同学年の中国人の○○さんでした。彼女は、積極的に日本語能力試験の勉強をするほど日本語学習に熱心で、いくらか日常会話が出来るレベルでした。彼女には、日本語が上手に話せるより、色々な日本を知って欲しいと思い、彼女が興味を持つ日本文化や観光地（銀座、渋谷、新宿、皇居）等を案内したり、時にはスーパー銭湯に行ったり、ウォーキング大会に参加したりしました。彼女は現在、仕事の関係で教室に参加できないこともありますが、仕事やプライベートの相談にのったり、遊んだりしています。

このように外国人という垣根を越えた付き合いが出来たのは、私の誇りです。

これからも学習者の方には、日本の楽しさや面白さを知っていただこうと、ピアノで日本の歌を伴奏したり、早口言葉の紹介や日本料理を一緒に作りながらサークル（活動）を盛り上げていこうと考えています。日本語を上手に教えるのも大切ですが、まず、日本を好きになっていただけるようなコミュニケーショを取りながら、人と人とのつながりを作っていきたいです。

Network Information

2011年度 TNVN の活動を下記の皆さんにお願いし、進めていきます。
会員皆様のご協力・ご支援をお願いします。

役　員	代　表	梶村 勝利（早稲田奉仕園日本語ボランティアの会／新宿区）
	副 代 表	岩佐 幹彦（江戸川平井にほんごサークル／江戸川区）
	事務局長	林川 玲子（ビバ日本語教室／港区）
	会　計	床呂 英一（まちだ地域国際交流協会／町田市）
	会計：兼務	林川 玲子（ビバ日本語教室／港区）
	会計監査	矢崎 理恵（さぽーと21 ／品川区）
スタッフ		岡田 美奈子（やさしい日本語／江東区）
		小川 伶子（初歩日本語／練馬区）
		大木 千冬（町田日本語の会／町田市）
		福井 芳野（小平日本語ボランティアの会／小平市）
		大滝 敦史：ホームページ管理／在宅
		松川 彩子：学習者からの問い合わせ対応／在宅
		鶴田 環恵：ニュースレターレイアウト／在宅
運営委員		石川 秀樹（清瀬国際交流会／清瀬市）
		武貞 明子（東久留米にほんごクラス／東久留米市）
		中山 真理子（中野区国際交流協会／ 中野区）
		山田　泉（法政大学キャリアデザイン学部）

Column

❖ 受領書を受取って

『ボランティア日本語教室ガイド 2011 東京』が２月 25 日に出来上がり、それから何回かに分けて、掲載団体ほか役立ててもらえる団体・機関に送付や手渡しなどで、ほぼ 900 部配布しました。『ガイド』には「送付のご案内」を挟み込み、そこに「受領書」を FAX かメールで返送するようお願いしてあります。実は 900 枚もの受領書がきてしまったら家庭用の FAX で受取るのはたいへん、と心配していました。けれど、受領書第１号がエルサルバドル大使館から届いた時は、手放しで喜んでしまいました。その後続々と受領書（主に FAX で）が届き、今のところ 231 枚。受領書は、北海道や島根県から、消防署やハローワークからと様々な所から届いていますが、そこに、「ありがとう」とか「皆さんの役に立てたい」とか「活用して助かっている」などと添えてあると、その言葉の重みに改めて気づかされます。『ガイド』をご入用の場合は、事務局へご連絡ください。

（RH）

❖ 送別句会

俳句には季語が必要と言われていますが、最近はあまりきびしい事は言われなくなっています。昨年、春から約１年の予定でホームステイをしながら、日本の高校に留学していたアメリカの少年が、私のボランティア教室に来ていました。みるみる背がのびて見上げる様になり、少年とは思えなくなりましたが、高校二年生、少年です。今年春、学校で俳句の勉強があって、そのお手伝いをしました。

いよいよアメリカへ帰るときまった時、句会をして楽しい思い出にして欲しいと思い計画し、ボランティアたちも了承し、全員に句箋をくばり、筆ペンを用意して思いおもいに書いてもらいました。小六の女の子が二人いますが、学校の移動教室で、俳句を作ったことがあり、盛り上がり、言葉をつなげ、気持ちを伝えることをみんなで楽しみました。

「リールさん日本語のことを忘れずに」
「又、来てね光が丘で待っています」
「この教室楽しいじかんありがとう」

ほかにも何句も出来て、日本の文学の一端を垣間見てもらい、良いことをしたと悦に入っています。

（R.O）

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局

TNVN 東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVN の会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVN は会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報受発信を行い、活動の活性化を図ります。

東京日本語ボランティア・ネットワーク事務局の活動

◆日時：毎週金曜日
第１、第３ 金曜日／午後２時～４時
第２、第４ 金曜日／午後２時～６時
第５金曜日／休み

◆場所
東京ボランティア・市民活動センター
JR、地下鉄（東西線･有楽町線･南北線･大江戸線ー出口 B2b）飯田橋駅下車
セントラルプラザビル　10F ロビー

◆日本語ボランティア相談窓口
日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。
ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸 1-1
東京ボランティア・市民活動センター
メールボックス　No.4
● TEL：03-3235-1171
（呼出：金曜日活動時間帯のみ）
● FAX：03-3235-0050
● E-mail：webadmin@tnvn.jp
● URL：http://www.tnvn.jp/
●郵便局払込
口座番号：00100-1-719259
加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

●新会員紹介　6 団体
◎正会員
小平楽しい日本語の会（小平市）
日本語ボランティア「めいめい」（足立区）
あつまれ日本語ひろば（東大和市）
中央区文化・国際交流振興協会（中央区）
中野区国際交流協会（中野区）
日本語サークル「えがお」（墨田区）
◎個人協力会員（1 名）／小田良子

●会員数（2011 年 5 月 27 日現在）
正会員：87 団体、団体協力会員：2 団体
個人協力会員：29 名、賛助会員：4 団体

●編集／岩佐 幹彦、大木 千冬、
岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利
床呂 英一、林川 玲子、福井芳野
●レイアウト／鶴田 環恵